

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか		
所在地	岐阜県羽島郡笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	平成26年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170600510-004PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業所が、運営されているため、利用者やご家族の安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれています。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実現するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、複数の介護事業を展開する法人の一部門である。その中心に、母体病院があり、利用者・家族の安心と満足な暮らしを支えている。特に、大きな特徴は、職員の退職者が、ほとんど見られない。管理者・職員は、仕事にやりがいを持ち、価値観を共有し、相互信頼が強く、また、食事づくりは、3ユニット別メニューで、食材の仕入れや調理は、その日の各担当者が担っている。食材費は、一日820円で、質・量ともに充実し、制度本来の目的を堅持している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員としてホームにはいつでも来ていただけるようにしている。 (毎日、面会に来られるご家族も見えます。)	理念は、目立つ位置に明示し、常に意識をし、また職員会議でも、その意義を再確認している。利用者の、人としての尊厳を守り、思いやりが通い合い、安心と満足のできる生活支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあいサロンに参加したり、近くの喫茶店に行ったりして、ふれあいを持つようにしている。また地域の方にホームの行事に参加していただき交流を持ち、法人として自治会に加入している。	自治会員として、地域の清掃活動を行ったり、ホームの行事に、地域の人たちを招いている。地元の小・中学生が、体験学習で訪れたり、町のふれあいサロンで、地域の人々と交流をしている。	地域とのつながりを、さらに深めるために、介護や認知症の困りごと相談窓口を設けるなど、地域から、より必要とされる取り組みに期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	私たちの専門性をいかし地域の方の話を聞いたり、アドバイスしたり、また、申込みに見えたご家族には、少しでも手助けになるよう話しを聞いたり、相談にのったりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年6回開催し、民生委員、行政、家族が参加し意見交換している。又評価後に、ご家族にアンケートを出しそれをもとに運営推進会議で話し合いを持っている。	会議に出席する新しい役員には、運営推進会議の目的や役割を理解してもらっている。転倒事故や対策、認知症の理解、自己評価への取り組み等で意見を交わし、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町職員には毎回運営推進会議に参加していただき、どんなことでも話すことができる。又入居時にも情報が頂けたり、相談もでき、行政主催の研修会にも参加している。	町の担当者へは、事業運営やサービスの実情を、定期的に報告している。町主催の事業者会議や研修会にも参加をし、情報を交換している。困りごとは、気軽に相談し、連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでいる。権利擁護委員会も2か月に1回開催されている。玄関のカギは、施錠しなくてもよい構造になっている。	身体拘束や虐待をしないように徹底している。精神疾患を伴う興奮や暴力には、全職員で知恵を出し合い、対応策を工夫している。日中、玄関は解放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修会に参加し、職員全員に周知し虐待についてのアンケートを取りミーティングで話し合う。利用者に対しての言葉づかいや態度が虐待になっていないか、職員同士で注意しあうようにしている。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、理解しているため、必要と感じた時には、家族に話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。又毎月利用者の様子を家族あてに報告し、面会時に出来る限り要望が聞けるようにしている。入居時に、書面で説明している。	家族の面会や暮らしぶりの様子を、毎月、書面で報告して、要望等を確認している。おおむね好意的な意見が多いが、外出支援の様子を知りたいとの意見もある。さらなる情報提供の方法を検討している。	暮らしの様子を報告する書面に、外出(散歩や外気浴を含む)項目の追加が望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の日々の会話から不安などの相談を受けるようにしている。行事などは職員が計画を立て実行できるようにしている。月1回のミーティングでも意見が出せるようにしている。法人代表も理解がある。	定例の職員会議で、意見・提案を話し合っている。利用者の不穏や介護抵抗への対策、行事企画の立案等で意見を交わしている。また、研修や資格取得も奨励し、実現をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望をできるだけ受け入れ勤務表に反映している。職員評価は、年3回管理者が行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報は、回覧で回している。希望があれば参加できるようにしている。又管理者より必要な研修は、指示をすることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、岐阜県グループホーム協議会の理事であり同業者との交流を持っている。職員は研修などで交流を持つようにしている。認知症介護実践研修には、介護福祉士が参加できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。 不安や困っていることは、家族と相談しながら対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分時間をかけるようにしている。不安なことはすぐに対処するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にあるサービスの事業所の意見を聞き、適切なサービスを支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のこだわり、困惑などを聞き、日々の生活の中から、信頼関係が得られるようにして、本人のできることが、日課になり、他者との関係をより良いものにしていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月暮らしの情報を郵送している。 気持ち、行動、状態を知ってもらうことで、家族と共有する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密に取り、馴染みの人としての関係が途切れないように支援に努める。 入居者同士が知り合いという方が多くなり、入居者の家族でなくても近所であることで話しかけてもらえる。	毎月、一回、ふれあい喫茶へ出かけ、馴染みの関係を続けている。ホームは、3ユニットで大勢なので、利用者同士が仲良くなっている。近くの笠松競馬場は、歴史のある馴染みの場所でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮をしたり、会話を促したり、日常生活の中から関わりを持つようにしている。 よく動かれる方のそばで入居者同士が話をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されても、病院に見舞いに行き、状態の把握に努めご家族とのつながりが途切れないようにしている。又いつでも相談に来て頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得たり、本人の希望、意向を把握し困難な場合は、職員全員で相談し希望、意向に沿えるよう努力する。	日頃の言動や表情から思いを把握し、さらに家族からも情報を得ている。突発的に不安定になる人には、職員間で、より良い対応方法を工夫し、安定した暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を基に、生活歴、生活環境これまでのサービス利用の把握をして、利用者と馴染みの関係を築きながら、日々の暮らしに役立てる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理票の利用や、カルテの記事で把握ができるようにして、個々に合わせた日課表を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月発行している生活状況より家族利用者の希望を聞き、職員の意見や、ケアの記録を参考に介護計画を作成して、カンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。	ケアの経過記録を検討し、職員の意見や気づきを計画に反映させている。さらに、本人・家族の希望も取り入れ、安心して、自立した生活が送れるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケア実践は個別の記録に記入し情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人で他のサービス事業所がありいつでも相談でき、利用することが出来る。そのため家族より相談があってもすぐに対処できる。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小、中学生のボランティア、研修生を受け入れ民生委員の方より地域の情報をいただいたり、包括支援センターより相談を受けたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので適切な医療を受けている。	個々にかかりつけ医がある。ただし、近くに法人の病院があるので、定期および随時の往診を受けている。訪問看護もあり、情報を共有・連携しながら、適切な医療を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算にて、日常の健康管理はできている。又相談もいつでもできる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、サマリーを書くことで情報を伝え連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族利用者が、最期をグループホームでと願う方に身体的、精神的苦痛を緩和し日々の暮らしを営むよう援助する。	入居時に「事前確認書」で、重度化・終末期の方針を確認している。終末に向けては、何度も関係者で話し合い、最善の方法を選択している。医療依存が避けられない場合は、法人の病院へ入院している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手当の話し合いをし緊急時のマニュアル作成をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして働きかけをしたり、年2回の避難訓練では、夜間を想定し、利用者と共に訓練をしている。	災害訓練は、夜間想定、避難誘導、初期消火、通報等を行っている。法人の関連施設との連携、近隣住民や企業との協力体制を確認している。緊急マニュアルも整備し、全員で周知をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、人格についての勉強会をしたり、職員間で意識し合うよう話し合いを持ったり、自尊心を傷つけないよう関わっている。	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないように接している。ストレスを与えるような言動を避け、安心感が持てるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意見を、確認しながら行っている。又、意志の確認ができない方は、職員がその人に合わせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて快適な身なりの支援をしている 又希望に応じて選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたり、季節の食材を取り入れ、畑で採れた野菜、近所で頂いた野菜などを利用し季節感を味わってもらおう。又準備を手伝ったり、後片付けなど出来ることをしていただいている。	季節の食材を使い、家庭的な食事を提供している。職員も一緒に食べ、楽しい時間を共有している。準備や片付けも手伝っている。職員が促しても、全く食事に手をつけない人も見られた。	食べる意欲を引き出すために、運動や嚥下体操(首振り・舌だし、発声等)の試みに期待をしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量はその人に合ったものにし、水分の取れない方は、その方の好きなものにしていきます。栄養バランスは、法人内の栄養士に確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った口腔ケアをしている。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者は、できる限りトイレでの排泄に心掛けている。トイレ誘導はその人に合った排泄パターンで行っている。	個々に合わせて、声かけ誘導を行っている。自分から訴える人もあり、トイレで排泄することが習慣となるように支援をしている。常に清潔を保ち、心地よさを体感できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた便秘予防をしている。水分量、根野菜を多くしたり、内服で調整したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回で、時間は職員に合わせているが、一人一人の入浴時間は利用者に合わせている。 例えば、ゆっくり入りたい人には時間の配分を考えている。	入浴日は、週に3回であるが、毎日の希望にも応じている。拒否の人は、無理強いせず、代替えを工夫している。入浴時間は、本人のペースに合わせ 満足してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に添えるようにしている。眠剤を使用しないで、お茶、牛乳などを飲んでいたり、会話したり、職員と過ごし休んでもらう。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師が把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて手伝いなどしていただくようにしている。施設内に草花を植えて水やりを日課にしている利用者がいたり、コーヒー、嗜好品などを提供したり、ラジオ体操、あそびなどで、気分転換を図るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけることはできるが、普段いけないところには、家族の協力ででかけることもある。又職員の付き添いで、コンビニ、歯科、喫茶店、お墓に行くこともある。又、月に1回町主催のふれあい喫茶に参加し、地域の人と交流を持っている。	ホーム周辺の散歩や敷地内の庭で、外気浴を楽しんでいる。時には、買い物やふれあい喫茶、お墓参りへも出かけている。普段行けない所へは、家族に依頼をしている。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、管理できる方は本人が管理してできない方は、職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助をしている。電話は、希望があればいつでもできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、行事の写真飾りなどで季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるよう空気清浄器を使用している。	居間の天井は、天然木の吹き抜けで、大きなファンが静かに回っている。寛げる量のコーナーや椅子がある。鮎や金魚の水槽、七夕飾り、暮らしの写真、季節の花も飾っている。窓越しに和風の庭や花壇が見えて、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に畳のスペース、廊下に椅子を置きひとりになる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら、馴染みのものを持ってきてもらう。花好きの利用者が、居室の出窓で花を作り楽しんでいる。	居室には、好みの収納ケースや小物類を持ち込んでいる。季節の花や見やすいカレンダー、誕生日の記念写真などを飾り、清潔で居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。		